

# 川柳 さいたま



紫陽花

2019年  
6月号 (No.715)

日川協加盟

## 巻頭言

草食系といひん

願法みつる

日本人は草食系人種としてされてきた。けれども現今の社会事象に観られる軽佻浮薄な行動様式は、本来の草食系動物のそれではなさそうだ。明治以来の西洋化で摺り込まれてきた肉食系のそれとも、少しばかり異なるようだ。

突飛な考えだが、現代の日本人の生き方が、昆虫種族に似ているように思える。人類に比べれば遙かに長い歴史を持つ昆虫の発達は、擬態への指向にあったとされている。敵ばかりの環境では、擬態の術なくして種族は残せない。カマキリの幼虫は蟻の姿に似る。蝶の擬態術は芸術的である(人間から観れば)。成虫になって弱い命を燃え尽くすウスバカゲロウは、その変態過程で蟻地獄となつて蟻を襲う・などは、進化の過程で身に付けた本能である。

そんな昆虫族の生き様が、変化しつつある日本人のそれに、似ているようにも思える。近代化とは、昆虫的草食系への種の変化なのだろうか。もしそうなると、心経という眼耳鼻舌身意の六感にわたつて、昆虫的擬態術の智恵を学ばなければならないかも知れない。若い人の世界について行けない大人には、悩ましいことである。

日日是好

願法みつる

下手な川柳拍手とはありがとう

不明句へ精神科医もさじを投げ

当て馬の句が天に抜けサテ悩み

むつかしい嗚呼人生と川柳と

ぎこちない擬態で転ぶ下り坂